



何百とあつた炭鉱が、今では完全に姿を消してしまつた筑豊炭田。地底にはまだ、尊いエネルギーの富を残しながら。写真は、炭鉱合理化の嵐のなかで、いち早く閉山してしまつた大正炭業跡。堅坑やぐらの残骸だけが、かつての栄光の跡をとどめているばかり。石炭政策がもたらした、一つの現実だ。



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話(53)3033番
(53)3034番
編集兼
発行人 前川 哲也
半年間1,200円 送料共

貯炭のかけにあるものは?

資本蓄積を巧妙に

労働者の要求押えながら

増え続けている貯炭。そのための労働者の間に、生活改善や権利の拡大などをめざす大切な要求を自ら手ひかせる傾向が頭をもたげてきた。それでも炭労は、七九春闘の準備をすでに開始し、石炭政策闘争を続けている。貯炭の陰にある事実を、果たして何を教えているか。そこには、なにかつ着々と資本蓄積を進めていく独占資本の歩みがある。

三日付の西日本新聞の朝刊は、増え続けている九州の貯炭の実態を伝え、「石炭復権危うし」と警鐘を鳴らした。

増え続ける九州の貯炭

同紙によれば、九州の貯炭は十月末現在で百九十六万九千トン。昨年同期の六十四万一千トンに比べ、三倍以上の量だといふ。

独占はそれで強める収奪

同紙が指摘する貯炭の原因は、第一に、鉄鋼減産のためなどで大し続けるなかで、とくに石炭の販売面を独占する資本は、職場の

石炭政策を国民の手に

右の事実を、石炭政策を一日も早く独占資本の手から奪い返し、真に労働者・国民のための政策・石炭産業の民主的安定を実現でき

交渉経過

組合 主要なベルトコンベヤ坑道については常に水洗できるところ設備を備え、日常の水洗管理を強化せよ。
会社 その通りに行なう。
組合 ベルトコンベヤの点検などで運転を停止すれば、鉱

組合の警告

「もしも聞かれる「検討する」との会社の答えで、保安に対する会社の姿勢は変わらず、組合は次のように警告している。
「会社は、働くわれわれに一方的に労働強化を押しつけるばかりで、保安責任について反省の色はない。従って引き続き職場で、会社の人命無視の生産第一主義の合理化攻撃と闘い、団結の力で命を守らなければならない」

三大裁判の公判日程

三池大災害裁判 十二月二十一日午前十時から、福岡地裁
坑内火災裁判 一月二十五日午後一時から、福岡地裁。前日にひき続き、吉田院長の証言
上村裁判 右同日午後一時か



失火責任について

一般 火元の責任を、その出火について、故意または重大な過失がある場合に、故意または重大な過失があったときだけ負わせることにしています。
失火責任について 例えは、電気コンロをつけっぱなしにしたため出火という場合、近所の煙草店に対しては、故意または重大な過失のときだけ賠償責任を負うことになりま

総評年末カンパへ全組合員、期手から拠出

三池労働組は総評の呼びかけにこたえ、年末カンパを行なった。同カンパは組合員一人当たり五十円ずつを、期末手当のなかから拠出することになる。総評の呼びかけによれば、全国の労働者から集めるこのカンパは、もっぱら、狭山差別裁判、大須事件、反原子力発電裁判、反基地・反自衛隊裁判への救援に使われることになって

生産第一主義改めよ

「検討」を約束はしたが

八日、三池労組は依然改められぬ保安問題について、会社と団体交渉を行なった。だが組合は、その結果「会社に基本的な責任についての反省の色はない」として、「今後も、職場から命を守る闘いを強化することを訴えている。」
こんどの保安団交の端緒となつたのは、三川と四山鉱で相次いで起きた重大災害だった。
共に十一月中に発生した災害。
十四日三川鉱で坑内機械工の西村守さん(四十六歳、芦屋市原万田六九〇)が死亡、二十五日四山鉱で坑内電気工の西山洗さん(四十六歳、玉名郡南関町大字関下字津

留一六〇)が重傷を負った。(以いて、組合はほほ次のように追及した。
「検討」を約束はしたが、長年から無縁ですぐやましまし、この点どう考えるか。
会社 停止する時点、無